

1. 園の保育・教育目標

**心豊かな たくましい子  
げんきな子 かんがえる子 やさしい子**

2. 前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、園経営の重点及び具体的方策

- ・子ども自ら選択して遊べるよう遊具、用具、教材を整える。
- ・他園の園児や小学生、地域の人や老人施設のお年寄りなど、様々な人との関わりの場をもつ。
- ・朝の会や終わりの会、サークルタイムを通して、自分の思いを伝えられる環境作りをする。
- ・保育者が積極的に、保護者や地域の方とコミュニケーションをとるようにする。
- ・「ヒヤリ」「ハット」を感じたときに、子どもと一緒に安全について考えとともに、職員間においても安全について考えたり、共通理解したりしていく。

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

(4点満点)

短期目標	自己評価	保護者評価
(1) 自分から体を動かす中で、自分の好きな遊びを見つけ、夢中になって遊ぶ。	3.8	2.2
(2) 身近な人や自然に親しみをもつ。	2.6	1.9
(3) 自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする。	2.7	1.7
(4) 保護者が話しやすい雰囲気を作る。	3.5	2.4
(5) 地域の住民や関係機関等との連携を図り、地域の資源を保育に活かす。	2.5	—
(6) 職員間の相互理解や協働を図り、喜びを感じて働ける職場環境を整えている。	3.6	—
(7) 園内外の研修へ参加し、研修を日々の保育に生かす。	2.8	—
(8) 災害や疾病等の発生に備え、安全環境整備や定期的な訓練を実施するなど、必要な対応を図る。	3.8	3.9

4. 自己評価結果の概要

- ・子どもの興味関心に合わせた環境を設定していく中で、子ども自ら「〇〇やりたい」と思いを伝えたり、自分達で環境を構成したりする姿が見られるようになってきた。
- ・園外保育時に、保育者が地域の方に積極的に挨拶をすることで、子どもたちも挨拶をする等関わりももてた。
- ★自分の思いが強く、気持ちの折り合いをつけることが難しい子が多いため、繰り返し伝えていく必要がある。
- ・ICTの活用により、情報の発信がしやすくなった。
- ・園内の危険な個所を話し合い、図式化し掲示したことで、共通理解することができた。

5. 保護者による評価及び意見の概要

- ・未満児の連絡帳やホワイトボードでの活動内容掲示によって、園での様子が分かり、会話の糸口になりありがたい。
- ・このまま楽しい保育園作りをめざし続けてほしい。
- ・延長保育での降園時に、軽微な地震が起きた際「地震です」の放送と共に、保育者が延長実施保育室に駆けつけ、ダンゴムシの姿勢をとって子どもたちの安全を守っていた姿を見て安心して預けられる場所だと再確認した。
- ★今ある環境の中で、最大限の安全体制を整えているが、部外者が侵入しやすい施設環境のため、遠隔での門開閉や警備員の配置等、市での予算確保に努めてもらいたい。
- ★運動会や発表会の行事以外に普段の生活が見られる機会があると嬉しい。

6. 関係者による評価及び意見の概要

- ・園内の雰囲気や和やかで、子どもたち、保育者共に、平穏なほのぼのとしたムードを感じた。
- ・小学校等との交流と共に、いろいろな年齢の子どもたちと交流できることはすばらしい。
- ・開園中に大地震が起きるとも分からないため、園児、保育者の安全を守るためにも、定期的な訓練をお願いしたい。
- ・保育園を訪れる度に、園児が笑顔で挨拶をしてくれ、保育者のきめ細かい指導が伺われる。
- ・園児の健全な成長のために、様々な角度から支援のねらいと具体的方策が設定され取り組んでいる。

7. 次年度に向けて

- ・より一層の体を動かせる時間や内容等、環境構成の工夫
- ・夢中になって繰り返し遊べるよう、子ども自身で遊びが選択できる室内外の環境構成の見直し
- ・コロナ前の、地域との交流等の見直しと在り方の再検討
- ・年齢に応じた、人との関わり方や気持ちのコントロールについての援助の仕方
- ・保育者からの声かけやデジタルの一層の活用等、保護者への働きかけの見直し
- ・在園児の多国籍化、発達のアンバランスなどを踏まえた、多様なニーズに応じる支援の在り方